平成２５年度・自主研究会等の活動報告書

|  |  |
| --- | --- |
| 研究会等の名称 | 大分BSC研究会 |
| 代表者 | 岩崎美紀 |
| 参加者 | 首藤 毅、甲斐幸丈、蔵前達郎、池田至郎、岩崎美紀（会員）  小野隆德（非会員） |
| 研究会等活動の目的 | BSC（バランススコアカード）理論を知り、中小企業診断への応用手法を研究する |
| 活動の記録 | 以下のとおり、定例会を開催。場所はコンパルホールもしくは、ホルトホールの会議室で実施した。事例発表、または実際のケースを使った演習に取り組んだ。  ①7/20（土）18:00～20:00  ②8/17（土）18:00～20:00  ③10/19（土）18:00～20:00  ④11/30（土）19:00～21:00／21:00～懇親会  ⑤1/25（土）18:00～20:00 |
| 研究会（調査研究事業）の成果 | 【１】県内企業へのBSC提供  大分県豊後大野市商工会様のご協力を得て、県内５社の企業に対し、会員によるBSC策定支援を提供した。３回の訪問によりBSCを使った経営計画書を無償で提供するもので、概ねご好評を頂いた。  【２】月次研修会での発表　2/12（水）  「BSC（バランストスコアカード）を使った経営革新計画策定支援」  上記【１】の５社に対する取り組みのうち、経営革新計画策定につながった３事例について、その傾向や課題を整理して発表した。多くのご参加を頂き、質疑応答も含め１時間半程度の発表を行った。 |
| 研究会（調査研究事業）の課題 | ・実施日程や変更の連絡が行き届かないことがあった。連絡手段を検討する必要を感じている。  ・参加者が先細る傾向にある。座学ばかりでなく、今後は実地支援への参画も促し、活発な活動を続けていきたい |
| 中小企業経営者へのメセージ | バランスト・スコアカード（BSC）とは、1992年にハーバードビジネススクールのキャプラン教授とコンサルタント会社のノートン社長により、「ハーバード・ビジネス・レビュー」誌上に発表された業績評価システムです。従来の財務分析だけでなく、数値化しにくいとされてきた顧客の視点、業務プロセスの視点、成長と学習の視点を加味した業績評価を行ない、企業のもつ重要な要素が企業のビジョン・戦略にどのように影響し業績に現れているのかを可視化することができる、経営管理において大変有益なツールです。戦略とリンクしたアクションプランを一枚のシート（「戦略マップ」と「スコアカード」）に表し、経営計画書や戦略実行ツールとしても活用されており、多くの大企業・上場企業において、その運用が定着しています。  我々が導入に関与した中小企業経営者からは、「経営者、スタッフのやるべき事が明確になった」「スタッフに経営について意識させることができた」等の好意的な声が寄せられ、一定の成果を挙げております。ぜひ、ご関心をお持ち頂き、貴社への導入をご検討頂ければと存じます。ご相談にはいつでも対応させていただきますので、どうぞお気軽に岩崎宛にお問い合わせください。お待ち致しております。  大分BSC研究会　代表　岩崎美紀　info@mikimiki.biz |